

# 岡谷市議会 産業建設委員会 行政視察報告書

## 【総体事項】

1. 視察日程：平成27年11月10日（火）～13日（金）
2. 調査事項（視察先）
  - (1) 産業観光の取り組みについて (福岡県 北九州市)
  - (2) 企業誘致の取り組みについて (佐賀県 鳥栖市)
  - (3) 都市計画マスタープラン・景観マスタープランについて (大分県 由布市)
  - (4) 豊後高田昭和のまちづくりについて (大分県 豊後高田市)

## 3. 視察参加委員

委員長	武井	富美男
副委員長	渡辺	雅浩
委員	今井	義信
委員	渡辺	太郎
委員	笠原	順子
委員	八木	敏郎

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

産業観光の取り組みについて（福岡県 北九州市）

人口：約 958,000人 面積：約 491 km<sup>2</sup>

#### （視察事項）

北九州市は、1980年代から経済活性化策として、宿泊業、飲食業等の観光振興に取り組んでいる。また、テーマパークや博物館の整備など大規模投資も行い、観光客は1,000万人に達したが、その後横ばい状況となったため、産業都市ならではの財産による「産業観光」を観光振興の起爆剤としたものであり、「工場見学」「産業遺産」「工場夜景」「環境観光」を4つの柱として取り組んでいる。

産業観光の推進体制としては、平成26年7月「北九州産業観光センター」を設置し、市、商工会議所、観光協会の職員それぞれ3名が所属はそのままで一緒に仕事をしており、効率的で効果的な業務運営をしている。また、ホームページの開設、地元旅行会社と連携した産業観光ツアーの実施、さらに、産業観光ガイドや工場夜景ナビゲーターが活動している。

### 2. 視察日時 平成27年11月10日（火）14：00～16：00

### 3. 参加者所感

- 「いまあるもの」を利活用する視点は岡谷市政でも通用する課題といえる。
- 住民から意見を集める姿勢も岡谷市政でも参考にできると考える。
- 観光を推進する際、商工会議所や観光協会の役割は重要であることは言うまでもないが、「産業観光」となると、企業も巻き込まないといけない。企業によっては、「観光にまで手が回らない」という会社もある中で、ものづくりを大切にする岡谷市で、観光（工業見学など）に取り組んでいただける企業をいかに増やせるかも大切な課題と言える。
- シルクおかやを観光の目玉とするならば、シルクに関わる、現存する繭蔵な

どの遺産の保存や維持管理を行い大切にしていけることが必要である。

- シルク文化を大切にしたい取り組みの更なる展開と、諏訪地域の6市町村が、より一層連携し広域対応で産業観光を進めることも必要ではないかと改めて痛感した。
- 官民一体で取り組むことは必要不可欠である。
- 観光客の滞在時間が短いことが課題とのことであったが、まちの活性化が図られるような情報発信が必要という話が参考となった。
- シルクファクトおかやを見学するだけでなく、市内の観光を楽しみ、その後は市内に宿泊できるようなホテルができればと思う。
- 岡谷市でも製糸関連だけではなく新しい分野の取り組みができる素材もあると思う。皆で色々な施策を通して活気あるまちを目指していきたい。

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

企業誘致の取り組みについて（佐賀県 鳥栖市）

人口：約72,000人 面積：約71km<sup>2</sup>

#### （視察事項）

鳥栖市の特徴は、①「抜群の交通アクセス」であり、高速道路など交通の要衝であり、福岡市など大都市の通勤圏である。②「地震などの自然災害が少ないまち」であり、災害リスクに対し有利である。③「労働力人口が充実」であり、鳥栖市の人口は今後も増加すると予想されており、さらに大都市に隣接しているため労働力人口が充実している。④「自然と豊富な水資源に恵まれた地域」であり、安定した創業が可能であることが特徴である。

企業誘致の取り組みは、昭和29年の市制施行と同時に一貫して積極的な誘致を実施してきており、現在の進出協定締結企業数は192社の実績である。

誘致企業への優遇措置については、企業立地奨励金（固定資産税の優遇）、ISO認証取得等奨励金、環境保全等奨励金、雇用奨励金の4つの奨励金があるが、他自治体に比べ特に手厚いものではないとのことである。

産業団地の整備については、高速道路等の整備に合わせ整備をしてきたことが特徴であり、これまで6つの工業用地の整備をしており、このうち佐賀県が事業主体のものが4箇所である。また、交通の利便性により、流通系企業の立地が多いが、多種多様な業種の企業が立地している。

佐賀県との関係においては、県と市が協力して企業誘致を実施していることが特徴であり、市単独で営業活動を行うことはなく、県が中心となり誘致の営業活動やアフターフォローを実施している。

### 2. 視察日時 平成27年11月11日（水） 13:00～15:00

### 3. 参加者所感

- 鳥栖市と佐賀県の連携は注目すべき教訓である。佐賀県が関東圏と関西・中京圏に企業誘致本部を設置していることは、鳥栖市にとっても職員数や財政規模からみても動きがとりやすい。
- 岡谷市は東京や名古屋まで鉄道や高速道路を使い、2時間程度でアクセスできる。この交通アクセスを活用していく必要があると考える。
- 広大な土地があり交通の要所という立地の中、県と一体になった誘致活動により、企業が鳥栖市を指名してくることは、県との連携が重要であると感じた。
- 今後の岡谷市の取り組みとして、長野県にもっと積極的に企業誘致の窓口をお願いするなど県との連携強化、高速道岡谷 I C の有効活用が必要ではないかと感じた。
- 岡谷市の企業誘致に必要なこととして、さらに企業にとって魅力的な優遇措置が必要であると思う。
- 鳥栖市では隣接する福岡県より地価が安価のため、企業が立地し、人口も増加してきたが、岡谷市は地価も高いため、企業に対し更なる魅力発信をすることが大切である。

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

都市計画マスタープラン・景観マスタープラン（大分県 由布市）

人口：約 35,000人 面積：約 319 km<sup>2</sup>

#### （視察事項）

由布市は平成17年10月に3町の対等合併により誕生した市である。合併前の旧3町のまちづくりはそれぞれ異なり、旧狭間町は大分市に隣接しベッドタウンとして住宅地域が広がり、旧庄内町は農業地域、旧湯布院町は観光地であり、3つの異なる特性を結び付け、融合することを目的として都市計画マスタープランを平成25年2月に策定している。

景観マスタープランにおいては、3地域の特性を生かしたまちづくりが必要であること、都市計画の見直が必要であったこと、さらに、これまで開発に関する市独自の条例や都市計画は建物の高さ等の基準しかなく、色やデザイン等の景観に関する基準が無かったため、開発や都市計画にはない基準を景観ルールで補っていくことが必要となったことを背景に、平成20年に景観マスタープラン策定委員会を設置し協議を進め、平成21年3月に景観マスタープランを策定している。

その中でも、旧湯布院町はまちづくりの意識が高い住民が多く、平成2年には「潤いのある町づくり条例」を策定し、条例の運用等により景観が守られてきたという経緯があるが、観光客の増加に伴い、市外からの出店も増加し、地域の景観に対する暗黙のルールの実行力が失われてきたことにより、景観の乱れが生じてきたため、地域住民が景観協定というルールを作成し運用している。

2. 視察日時 平成27年11月12日（木）10:00～12:00

### 3. 参加者所感

○景観保護について、湯布院の「湯の坪街道」では、住民とともに行政運営が

行われていることが印象的であった。とくに、景観保護と商業活動の両立は、行政と住民・商店主の理解なしには推進できない、バブルから景観と住民生活を守った住民運動が地域に根差していることを各所に感じた。

- 岡谷市は製糸全盛からものづくりのまちとして発展してきた。その一方で、観光資源がないのが現状となっている。このことを踏まえれば、ものづくりによる観光戦略を組まざるを得ない。現時点では蚕糸博物館がその役割を担っているが、それ以外の産業に光をあてた観光戦略を組む必要がある。そのためにも、企業や住民の理解はどうしても必要である。
- 計画段階で、住民との情報共有が必要であると感じた。
- 「100年単位のまちづくり」のように今後の施策、計画は長いスパンを考えていくことが必要である。
- コンパクトシティとは、集中化の考え方で重要な施策ではあるが、岡谷市が大切にしていることを貫くことに繋がるかを熟考しなければならない。
- 3地域の特色を生かしながら一つの都市へと考え方を一つにして取り組んでいる姿勢が感じられた。
- 視察の中で、プロジェクトX「湯布院・癒しの里100年戦争」を拝見し、今日の由布市を守った取り組みは感動的で、何がまちづくりに重要かという点を教えていただいたような気がする。岡谷市においても、諏訪湖や八ヶ岳のかけがえのない景観を守っていかなければならないと感じた。
- 湯の坪街道という軽井沢に似た商店街を歩き、景観に配慮したモノトーンのコンビニや駅舎、自動販売機など大変参考になるとともに、そこまで徹底して実践するのかと驚いた。
- 先人達の温泉街に対する思いが現在の観光客の多さを物語っている。

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

豊後高田昭和のまちづくりについて（大分県 豊後高田市）

人口：約23,000人 面積：約206km<sup>2</sup>

#### （視察事項）

「昭和の町」の目的は、商店街が最も栄えた最後の時代であった「昭和30年代」をテーマに3つの柱を掲げ、商業と観光の一体化により商店街の魅力を高め活性化を目指すとしており、各店舗が取り組む昭和の趣を再現するための改修である「昭和の建築再生」、店に代々伝わるお宝を一店一宝として展示する「昭和の歴史再生」、店自慢の昭和商品を一店一品として販売する「昭和の商品再生」、お客さんとのふれあい、おもてなしの心づくりの「昭和の商人再生」の4つの再生と、団体観光客等への対応として市民の方が商店街の各商店の歴史などを語りながら案内する「ご案内人制度」、旧高田農業倉庫を活用した観光拠点施設である「昭和ロマン蔵」の整備、その他様々なイベントを開催している。また、昭和ロマン蔵には3つの博物館とレストランも整備されている。

年間観光客数は平成15年には約20万人となり、平成23年にピークの約40万人、平成26年で約34万人となっている。

多くの観光客に対応するため、平成17年11月に市、商工会議所、金融機関などが出資し、第三セクターで豊後高田市観光まちづくり株式会社を設立し、広域観光振興、昭和のまち振興、昭和ロマン蔵の運営を行っている。

2. 視察日時 平成27年11月13日（金） 9：30 ～ 11：50

### 3. 参加者所感

- 豊後高田市は新規施設の建設から、既存施設の有効活用に舵を切り替え、さらに住民のアンケートを通じて昭和30年代の施設があることを発見した。このことを通じて、住民の意見や知恵も借りながら、まちづくりを進める視

点は大いに学びたい。

- 「シルクのまちおかや」であれば、一つの施設だけでなく関連する事業へ発展させること、あるいは近隣市町村との情報共有による連携が必要であり、お互いの考え方を一つにする方法が課題と感じる。
- どのような客層に対し、何をアピールして集客するかを明確にし、どこにPRしていけばよいのか方向をきちんと決めることが重要と感じた。
- 昭和の趣を感じさせてくれる商店街は、ボランティアの方の説明がないと普通の古い商店街ですが、ボランティアから様々な説明を聞くことで懐かしい感情がよみがえり、こうした対応が重要であると感じた。
- 岡谷市においては、シルク文化の歴史を感じるまちづくりを、今後どのように展開していくのか、残っている貴重な当時の施設や文化を余り費用をかけないでどのように見せて展開していくのか重要だと感じた。また、天竜川近くの水車小屋を復元して、水力発電の取り組みとともに、観光資源として活用することも是非、検討いただきたい。
- 岡谷の商店街も取り壊されたり、シャッターが閉じたままの状態になっているが、製糸の街として栄えて来た歴史を大切にし、昔使われていた物を集めて展示するような場所ができれば良いと思う。
- 行政と市民の協働の結果であると感じた。
- 岡谷市もシャッター通りがある、昭和のまちではないが、何か生かすことはできないか。高齢者が楽しく過せるまちづくりもターゲットである。